

司馬遼太郎著「坂の上の雲(1)」文春文庫、文芸春秋 1999年1月10日刊を読む

## 海軍兵学校

### 1. メッケルは、その講義でいう。

「戦いは、出鼻<sup>はな</sup>で勝たねばならぬ」

敵の意表に出、その機先を制さねばならぬ、という。この思想は日本人が室町時代以来数百年かかって作りあげた日本剣術の基本思想だが、しかしそれが近代軍事学のなかでも通用しようとは、この当時の日本軍人のほとんどは考えていなかった。

P230

### 2. 参謀旅行というのがある。

これも、フランス陸軍にはない。欧米の他の国にもなく、ドイツだけのものであった。創案者は、モルトケらしい。

「統裁官はつねに戦術の大家がこれにあたる。参謀学生をひきつれ、実際の山野を舞台に、

「もしあの山ぎわの間道から敵の騎兵一個大隊が出現したらどうするか」

とか、

「この状況下で砲兵は野砲三個中隊しかない。それをどこに置けばいいか」

といったふうのことを統裁官がつぎつぎに質問し、相手の返答がわるければ罵倒し、修正し、さらに戦いをすすめてゆく。戦術は状況と地形によって流動するものだが、それを実際訓練するにはこの参謀旅行ほどいい方法はない。

その第1回の参謀旅行は、明治18年11月、茨城県下でおこなわれた。

戦場は、関東平野である。その第1日は利根川のほとりの取手町<sup>とりで</sup>から開始された。

P232

### 3. 兵站というのは、作戦のために必要なあらゆる物資——弾薬、食糧、衣服、馬匹<sup>ばひつ</sup>などを筆頭に〜 〜を後方にあって確保し、それを作戦の必要に応じて前線へ送る機関で、近代戦をやるうえでこれほど重要な機関はない。

P233

### 4. まず最初の1年はドイツ語を覚えることに専念した。単語のカードをつくり、毎日10語ずつおぼえた。桂は記憶力のいいほうではなかったため、それ以上はおぼえられず、結局半年に1800語をおぼえた。

P278

[コメント]

戦略とは何か、戦術とは何か、語学の学び方などを考えるのに、「坂の上の雲」は役に立つ。

- 2010年1月24日林明夫記 -